

# 「浜の集落」開催

市立海の博物館 ☎ (32) 6006

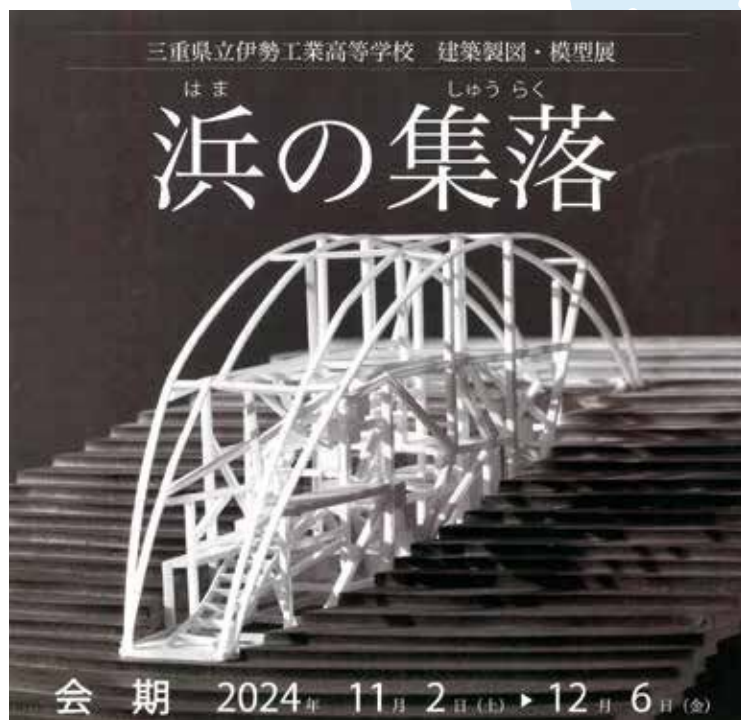
**会期** 11月2日(土) ~ 12月6日(金)

**ところ** 海の博物館 特別展示室

伊勢工業高校建築科による当館での展示は、2022年全国建築設計コンペ最優秀作品展「町の大漁旗」、2023年建築模型展「故郷の海」に続き3回目になります。今回は規模を大きくして特別展示室での開催となります。

今回の「浜の集落」は、建築科生徒の、浜にまつわる建築の図面と模型を展示。またスマホを使用して、CGを現実世界と重ねて映し出せるAR(拡張現実)技術を使った展示も試みます。

高校生の発想と努力の成果をご観覧いただくとともに、建築に興味のあるかたにはよりいっそう楽しんでいただけることと思います。



市水産研究所では海藻の植生調査を行っている。どこにいつ頃どんな海藻が生えているのかを調べるのだが、答志島でも東と西、北と南で生えている海藻の種類や割合が違うし、石鏡と相差でもやはり違う。極端に増減していないか、ウニや藻食性魚類はどうかなどと合わせて、潜水や磯歩きで調べることを植生調査という。調査者の人数的都合で鳥羽市海域全域、くまなく、毎月とはいかないが、答志島の大築海島、小浜、坂手島、菅島、石鏡や国崎、相差などの一部海域に限られるが定期的に調査している。また、合わせて被度調査も行っている。ある海域に巻き尺などで50〜100mのラインを引っ張り、5〜10m間隔で1m方形



枠を置いて被度調査を行っている。海底に方形枠を置いて被度などを調べている。



海藻調査の記録:答志島の東側にある大築海島の西部の50m区画内の海藻調査の記録。

枠を置いて、その枠内の海藻の大きさ、枠のどのくらいの割合を覆っているのかを調べ、その海域のおおよその海藻群落の面積の目安にする調査である。最近では鳥羽商船高等専門学校、KDDI、KDDI総合研究所、三重大学、三重県と共同で小型船などに取り付けた水中カメラで海底画像データを取得し、3Dマップ作成および藻場面積と二酸化炭素貯留量の算出までができるような研究も行っている。これらの調査を実施したからと言って、水揚げ量が増えることも、沿岸の生物資源の保全ができるわけでもない。しかし、それらへの対策を計画、検討するときには必要になる。また、鳥羽は自然資源の豊かさが人を惹きつける観光都市であるので、その豊かさがどのようなものなのかを知る意義は大きい。鳥羽で暮らす人以外の生き物の様子を知ること大切なことだと思う。

## 鳥羽・海藻文化革命 岩尾博士の 海藻博物記

vol.37

～植生調査の話～



水産研究所 ☎ (25) 3316